

城 訪 諏 原 高

たかはらすわじょう
別名 旭城
殿字保木戸平、和佐保字西平



復元された江馬氏下館主門から高原諏訪城を望む



いつだれがいたの

高原諏訪城跡のある神岡町殿は、高原川東岸の段丘上にある。地名は、江馬の殿様が最初に住みついて館をたてたことに由来し、往古は日向野村といったと伝える。

高原諏訪城は江馬氏の本城と言ひ伝えられているが、築城年代、築城者ともに不明である。

鎌倉時代に初代江馬輝経や二代江馬朝方が築いたとする説、室町時代の天文後期ころ江馬時盛・時経の築城とする説などがある。

城跡への道

○殿円城寺から徒歩で登るコース

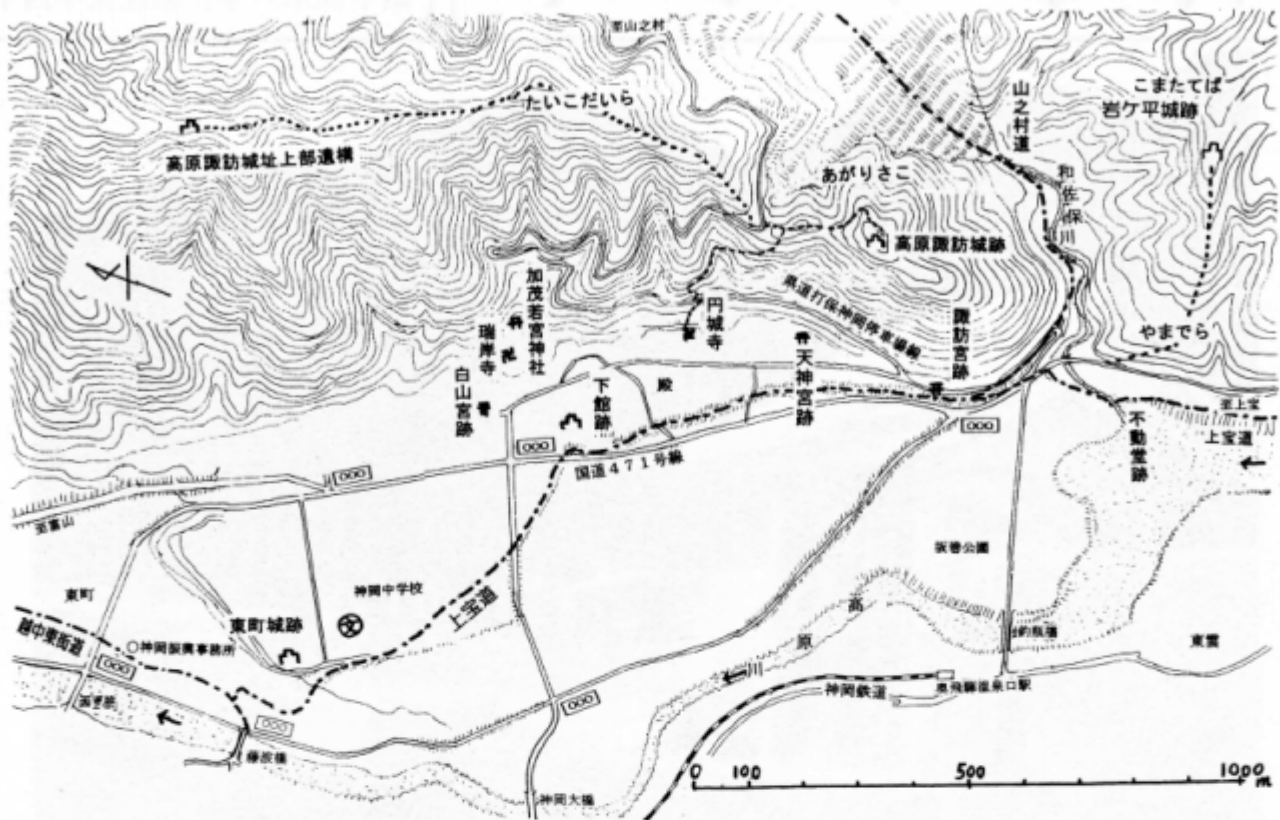
国道四七一号線殿の交差点(ガソリンスタンド前)を山手におれて道なりに進むと、右手に江馬氏城館跡下館跡がある。さらに進むと左に殿円城寺がある。

ここに車をおいて境内へ。「八十八箇所霊場巡り一番」の弘法大師像があり、さらに進んで石段を上ると「江馬輝経の墓碑」がある。その左手の墓地を通りぬけ、八十八箇所巡りの道を登る。ゆっくりに行っても三十分。

○栃洞道を車で行くコース

坂巻で国道四七一号線から分かれ、県道打保神岡停車場線(栃洞道)にはいり、登ること約一〇分、鞍部右

高原諏訪城跡・高原諏訪城上部遺構・岩ヶ平城跡・下館跡・東町城跡関係地図



手に「江馬氏城館跡高原諏訪城跡」の標柱がある。標柱の後ろの山道に入るとすぐに二体の石仏があり、殿円城寺からのコースと合流する。一〇分ほどで主郭。

城山に立つ

高原諏訪城の遺構をたどる

二〇〇四年七月八日、第一回現地学習会がおこなわれた。都竹清隆さんが同行して説明してくださり、渡辺哲男さんがビデオ撮影をしてくださった。

車からおりたところは、切通しになっている。地元の古老の話では、ここは、戦後道路が建設される以前から尾根が切りとられて堀切になっていたとのこと。切り通しの谷側の斜面をよく見ると、山すそにむかって豎堀のあとがあった。ここは、高原諏訪城の北境で、城跡はここから南へ尾根づたいにおよそ三五〇mにわたってつづいている。

県道脇の標柱の後ろから山道を少し行くと、道のかたわらに二体の石仏。縄張図によれば、このあたりに豎堀が二本連続してあるはず。谷側をのぞくと、たしかに二本のくぼみが見えてきた。くぼみとくぼみの間は、ほりあげた土で馬の背のようにもりあがっている。

会員から「豎堀は何のためにほったのですか」と質問があり、「それは、敵がせめのぼりにくうしたんやろな」と答えがcaえる。

豎堀は左右に二本ずつあって、それが尾根道のところ